

青木かのチャンネル

2025 春号(第51号)

発行：青木かの事務所 〒104-0052 中央区月島3-3-13-502



青木かのプロフィール
長崎市生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。
元テレビ局アナウンサー・通訳・英語講師。
水辺を活用した街づくりと災害対策に取り組む。
小型船舶免許1級所持。防災士。

黎明橋公園前の水辺空間が「水上スポーツ施設」に

これまで、「水辺の活用」に取り組んできましたが、現在中央区に欠けているのが「水上スポーツ施設」です。ようやく3月のまちづくり協議会で水上スポーツ関連施設を造るという報告がありました。

設置場所は、晴海3丁目黎明橋公園沿い朝潮運河上。以前、朝潮運河船着場があったところです。

中央区基本計画2023では、「水と緑プロジェクト」がリーディングプロジェクトの1つ。想定されている水上スポーツはボートやカヌー等の競技スポーツです。



移転前の朝潮運河船着場

また副区長から、“この水上スポーツ施設の建設とともに、現在ほとんど使われていない環境局の施設も一緒に開発しクラブハウスのようなものも造りたい”との発言がありました。

フェンスはサビつき、荒れて雑草も生えており以前から気になっていました。黎明橋公園と、この環境局の施設を合わせれば、確かにかなり大きなクラブハウスと広場ができそうです。

- 令和7年度:基本設計
- 令和8年度:工事開始
- 令和9年度:開設(当面の間は検証利用)

競技スポーツだけではなく、是非ボートやカヌー、SAP等で区民が気軽に楽しめるような施設になるよう、要望していきます。



環境局の施設

中央区の適正人口は20万人

今後10年間の中央区の人口推計を見てみると2027年中に20万人を突破し、その後もなだらかに人口は増加し続けています。



私は、以前から中央区の人口急増を懸念し「適正人口」について区の考えを問うてきました。議事録をたどってみると最初に質問したのが、平成28年の企画総務委員会で、企画総務部長(当時)の答弁は“本区の場合10平方キロという土地の中で、例えば義務教育の小学校のスペースをどうするかというようなことも含めて考えると上限は20万人程度”と答弁しています。

また最近では、令和7年予算特別委員会の質疑の中で、中央区の市街地再開発事業を牽引してきた吉田副区長から「中央区の人口は増えすぎた。住宅はもういいかな」という発言もありました。

ソフト面での行政サービスは、DX化することによって追いつくことができても、公共施設等ハード面での行政サービスには、限界があります。防災施策の問題もあります。区民への被害を最小限にとどめるためにも、20万人が限界。一番大事なのは「全区民の命と生活を守ること」です。

中央区から発信中!

Find us on
青木かの 検索

@kanoaoki
http://twitter.com/kanoaoki/

YouTube 青木かのチャンネル
https://www.youtube.com/user/kanoaoki

Blog 月島日記
https://ameblo.jp/kano-aoki/

皆様のご意見・ご要望は

青木かのオフィシャルサイト Kanoaoki.com

青木かの

または電話(090)4829-4702まで



オフィシャルHP



ブログ

令和7年 第1回定例会 一般質問

さらなる水辺の活用について

今回の一般質問では以下8項目を取り上げました。(区長答弁は筆者が要約)

①浮島エリアの釣り禁止について

区長答弁：石川島公園の船溜まりにある浮島は、平成22年に設置され、今ではカルガモ等の営巣も確認され地域の憩いの場となっている。令和5年「中央区水辺環境の活用構想」では、生き物と共生する憩いの水辺まちづくりを掲げていることも踏まえ、浮島周辺における釣りの禁止については、検討する。



枯れた枝に引っかかっている釣り糸と子ガモ達

②「水辺環境の活用構想」について

区長答弁：令和6年度に実施していた水辺環境の整備検討については現在、公園の現状を整理しているところ。「にぎわい」「自然との共生」等の視点を踏まえた整備方針等、基礎的な調査資料を作成している。検討内容がまとまり次第、議会に報告する。

③地域住民からの意見聴取

区長答弁：地域住民や子どもたちの声も含め、さまざまな方から意見を募っていく。

④「朝潮地区運河ルネサンス協議会」の実態について

区長答弁：朝潮地区運河ルネサンス協議会の構成メンバーは、地域団体、法人などの12団体、16名で構成されている。協議会は「地域性を活かし、安全で快適な生活環境や賑わいを創り出すため、運河を活かしたまちづくりを推進すること」を目的に活動している。

他区の「運河ルネサンス協議会」では、現在でも運河カフェや、ナイトクルーズ等、地域のイベントとして大変盛り上がっているのに対し、中央区の朝潮地区運河ルネサンスは改善の余地があります。晴海フラッグも朝潮運河に面しています。この協議会を区民に開かれたものとし、地域のメンバーを増やし、地域の皆さんがもっと関わっていくイベントになるよう取り組んでいきます。

要望

防災DXの推進

令和7年度は、「防災システム」の分岐点。現在の中央区の防災システムのさらなる向上のために次の4点を質問しました。

⑤防災士の養成

防災士については、私自身今年1月に資格を取りその有効性は自ら実感していましたが、すでに7年度の当初予算に約200万円(30名分)の養成費が計上されています。

区長答弁：まずは、各防災拠点、防災区民組織、防災対策優良マンションに少なくとも一人の配置を目指す。

⑥備蓄管理体制の強化について

区長答弁：区の備蓄物資は、80か所の倉庫に分散されているが、人口が増加していることに合わせて備蓄量も増加、品目も多様化している。

そこで区では、民間業者のノウハウを活用し迅速な物資の搬出を可能とする管理体制を早急に構築し、輸送体制の強化を図っていく。

⑦「総合防災システム」の導入について

区長答弁：昨年12月、本庁舎に新たな非常用発電機を設置し、停電時でも72時間使用できる電源を確保したことを契機に、より効果的に災害情報を地図上で一元管理できる「総合防災システム」を導入する。

これにより、防災拠点を含め災害現場と区災害対策本部をつなぐ新たなツールとして活用できるのはもちろん、区民への情報伝達の迅速化も図ることができる。年内中にシステムを構築し、来年1月に本部運営訓練を経て、令和8年度当初からの本格稼働をめざす。

⑧災害時民間事業者との協力協定先の多様化

区長答弁：災害時に、迅速に民間事業者が有する物資や専門的知識等を効果的に活用するためには平時からの「災害時協力協定」は重要である(現在約130社)。能登半島地震の教訓を踏まえ、新たに避難者への心理的ケアの実施のための協定を締結した。

定例会終了後、区は3月27日付で、災害時に非被災地から支援物資の調達や輸送等の支援を受けることができるよう、全国規模の組織を有し、大規模災害時の支援活動の豊富な経験やノウハウを持つ一般社団法人 AZ-COMネットワークと「災害時等における支援活動に関する協定」を締結しました。



防災拠点訓練



防災士認証状



隅田川テラスのアオサギ